

平成 28 年第 2 回定例会

*** 請 願 文 書 表 ***

市 原 市 議 会

1. 請願書の受理番号 市原市議会請願第2号
2. 受理年月日 平成28年6月10日
3. 提出者の住所氏名
4. 紹介議員 加藤和夫
5. 付託委員会 教育民生常任委員会
6. 件名及び要旨

市立幼稚園及び市立保育所再編成計画の実施を保留し、利用者と市民への説明会を地区別及び施設別に開催することについて

2016年4月に発表された「市立幼稚園及び市立保育所再編成計画」（以下「計画」）は、事前に多くの市民及び市の幼稚園関係者や保育所関係者への十分な説明も理解もないまま進められたこともあり、多くの所で不安が広がっています。こういう中、市が行なったパブリックコメントには短期間でも115通、274件の意見や疑問、不安、要望が寄せられています。

「計画」では、6カ所の全幼稚園は平成30年度末までに閉園、17カ所の保育所は5カ所が平成30年度末に市立認定子ども園化、4カ所は計画期間内（平成38年度まで）に市立認定子ども園化、1カ所が市立小規模保育事業所となり、白鳥保育所は29年度末で閉所となります。若葉保育所など6カ所が平成29年度末に閉所され、同じ地区内において平成30年度開設をめざす私立の代替施設（私立の保育所または認定子ども園）へ移転となり、本年7月から事業者の公募が始まる計画となっております。

しかし、以上のように大規模で複雑かつ根本からの変更で多くの問題があるにもかかわらず、本年2月から3月計画案パブリックコメント、5月結果発表、そのまま即計画実施という、あまりにも唐突で拙速な進め方です。また、現行の市立（公立）幼稚園も保育所もすべてなくなっていくという再編成計画に、多くの保護者や関係者はびっくりし、不安も増してきています。

そもそも目的や存在意義の違う保育所と幼稚園の一体化（一元化）が、はたして適切かどうかという疑問や不安が多くの関係者から出ています。さらにそれぞれの立場の違いや園生活のリズムの違いなどの問題が表面化しています。

また、多くの場合、民間の保育所では賃金が低く雇用も不安定となり、質の高い保育を進める上でも、大きな困難をきたしています。

本「計画」の文書には要旨「市立の教育・保育施設は、市と市民の共有の資産であることを踏まえ、市民、議会への十分な情報提供を行うとともに、意見を踏まえた上で、再編成を進めます」とあります。また市行政の根本姿勢(昨年9月市原市総合計画策定方針ほか)にも「幅広い世代・地域の市民との意見交換を通じて、生活起点の力（知見）を活かしていきます」とあります。

お隣の千葉市では、59カ所の保育所のうち、2カ所の認定子ども園から始めています。市原市のように市民への十分な説明や意見交換もないまま、一挙にこれまで培ってきた幼児教育

と保育の蓄積や環境を激変させるケースは他にないのではないのでしょうか。これでは、とても市民の納得が得られるものではありません。このよう拙速な取り組みは、父母や子どもたちと現場に、混乱と不安をもたらすものです。

よって下記の件につき請願をいたしますので、よろしくお願いします。

- ・「市立幼稚園及び市立保育所再編成計画」について利用者と市民への説明会を地区別及び施設別に開催してください。
- ・上記説明会開催にあたっては、「再編計画」の実施を保留してください。